

二見中だより 第12

代替大会 結果!

7月26日、8月1、2日と代替大会が行われました。この代替大会は競技の都合によって運営方針に違いがあり、あくまで3年生の出場機会確保のための大会です。全てを同一ラインで測ることはできません。ここではあくまで「大会結果」として紹介します。

(敬称略・新聞発表順)

【陸上競技】

男子総合3位

男子800m2位 □□□□□

男子1500m2位 □□□□□

男子110mH1位 □□□□□

四種競技3位 □□□□□

400mリレー3位

女子100m2位 □□□□□

女子200m2位 □□□□□



【卓球】(シングルスのみ)

女子優勝 □□□□□

男子3位 □□□□□



【剣道】

男子団体3位

女子団体準優勝

女子個人準優勝 □□□□□

【ソフトテニス】

男子団体 3位

男子個人

2位 □□□□・□□□□

5位 □□□□・□□□□

5位 □□□□・□□□□

9位 □□□□・□□□□

9位 □□□□・□□□□

女子個人

3位 □□□□・□□□□



【サッカー】

1回戦PK戦の末敗退

【バレーボール】

男子 優勝 女子 準優勝

【野球】

リーグ3位 惜敗

【ソフトボール】

リーグ3位 惜敗



【バスケットボール】

女子 優勝 男子 3位

※柔道・水泳競技は今回の代替大会は残念ながら中止と決定されました。

オープンハイスクール

OHSに積極的に参加しよう!

進路通信などで知っていると思いますが、解禁を待っていたかのように続々とOHSの案内が来ています。3年生の人たちにとって、情報不足になることはやめてほしいという願いをずっと高校側にしておりましたので、ひとまずホッとしています。後はコロナウイルスの状況が厳しくならないことを祈っています。

学年からも積極的に参加を促されていることと思いますが、今は情報の時代、迷ったときはとりあえず集めておいて、いらない情報を削除すればよいのではないのでしょうか?自分の目で見て、肌で感じることをお勧めします。

注意が1つ!「参加申し込み」をしたらやむを得ない場合は別として、必ず参加しましょう。安易な欠席は高校、中学に多大な迷惑をかけるうえ、自分の信頼も失ってしまいます。

全学年避難訓練終了!

天候不順のため、全校での実施が2次避難訓練(津波対応)しかできず、1次避難訓練(運動場集合)は各学年での実施になっていました。過日、全ての学年が終わりましたが、どの学年も真剣に取り組んでいたようで安心しました。

避難訓練の度、引き合いに出されるのが東日本大震災時の「釜石の奇跡」です。日本を代表する防災学の権威、片田敏孝教授が指導した避難訓練が実を結んだものですが、教授は岐阜県生まれで、当時群馬大学教授。2004年に釜石に入りましたが、「海のない県のもんが何を言うてる。」「海のことわしらが一番よう知っとる」と、当初誰からも相手にされなかったそうです。しかし津波警報が鳴っても「大丈夫」と避難もしない大人たちを少しずつ説き伏せていきます。「あんたらが避難せんから、子どもも避難せん。それでええんか?」

そうして7年後、本当に津波が襲い、「釜石の奇跡」となるわけですが、教授は「在家庭の5人の子どもと、600人の人が亡くなった以上、防災活動としては失敗です」の言葉を残しています。

3月14日、その“奇跡”にスポットを当てたNHKスペシャル「奇跡の子と呼ばれて」が放映されました。番組の主人公は今年20歳。震災当時は小学生でした。主人公は山へ避難、親友は迎えに来た父親と家に戻り、その家族は祖父1人を残し、全員が亡くなります。そうして助かった主人公は「釜石の奇跡」の一員となり、奇跡の子と呼ばれます。そう呼ばれることに複雑な思いを抱いたまま2020年、成人式を迎えた彼女はただ1人生き残った親友の祖父を訪ね、今までの思いを語ります。また祖父も幼いころから孫と共に可愛がってきた主人公に自身の思いも語り、互いの思いがあふれ出す深い内容の秀作でした。

まだまだ「死ね!」とか「死にたい」などという言葉が世間ではあふれています。いつになったら、何が起これば、我々は本当の意味で命の大切さを知るのでしょうか?『今、命あるのは当たり前ではない、今ある命を大切に。』改めてそう実感しました。

